

近年の研究紹介

岸田研作 研究室 2014.10.10

介護労働の確保に関する研究

介護労働者の不足は、介護保険がかかえる最も深刻な問題の1つである。介護の仕事は労働条件が悪いため、長続きせずやめる者が多いといわれる。しかし、賃金を理由に離職した者の多くは、別の介護の職場に移っている可能性が高いことが、岸田・谷垣(2013)で明らかになった。現在は、介護労働市場への新規参入者をどのように確保するかについて研究を行っている。

【岸田研作・谷垣静子, 2013, 「介護職員が働き続けるには何が必要か」, 『日本経済研究』, No.69, pp.1-23.】

介護と仕事の両立に関する研究

わが国では急速な高齢化が進行しており、介護を必要とする者が増え続けている。それにともない、親・義親の介護に携わる現役世代の数も増え続けている。今後、高齢化が進むにつれ、親の介護に直面する者の数はさらに増えることが予想される。家族に介護が必要になったとき、現役世代の介護者は、離職や就職の断念、仕事時間の短縮などを余儀なくされる可能性がある。岸田(2014)では、先行研究よりも厳密な統計処理を行った。それにより、介護保険が始まって10年以上経った時点でも、介護が離職の原因となり、収入の低下や余暇時間の減少を引き起こしていることが明らかになった。

【岸田研作, 2014, 「介護が就業, 収入, 余暇時間に与える影響」, 『医療経済研究』, Vol.26(1), pp.43-57】

受験生へのメッセージ

医療、介護に関する問題意識のある社会人の場合、これまでの専門は問いません。社会人経験の無い学部卒の方の場合、データ解析に必要な統計学の知識があることが大変望ましいです。留学生の場合、日本語文献を読むのに苦労することが多いので、かなりの根性が必要です。いずれにしても意欲のある方なら、来る者をこばまず、去る者を追わず、です。